

巾着ねふたの作り方

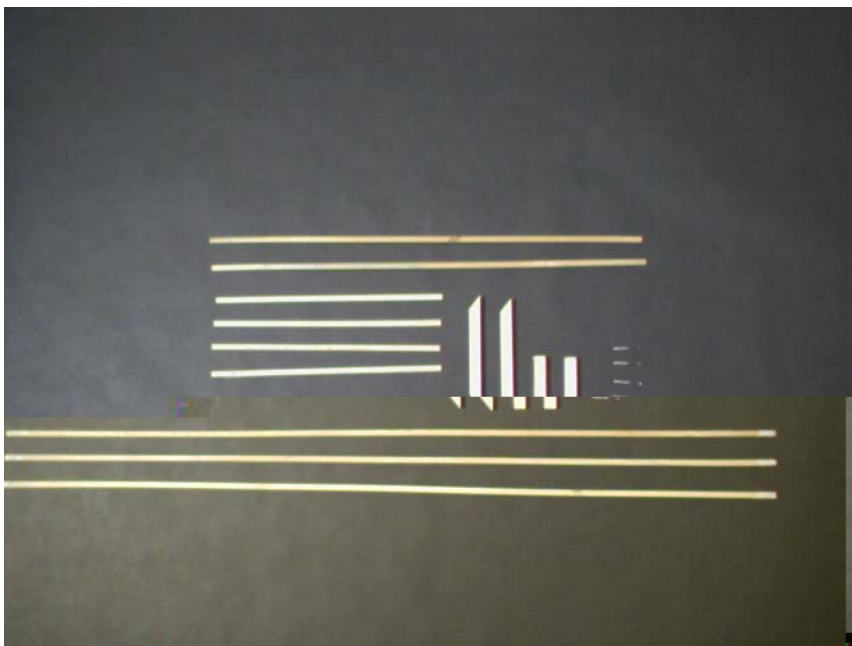


子どもねふた

現在は子どもねふたというと、小型の扇ねふたを指すようになりましたが、かつては子ども専用のねふたがありました。今でも、小扇や金魚ねふたは見られますが、女の子が持つ巾着ねふたはほとんど姿を消してしまいました。金魚ねふたが健在なのは、藩政期の津軽で飼育されていた「津軽錦（つがるにしき）」という金魚の形を模した歴史性と、人形ねふたの骨組みの基本構造を示しているという製作技術面からの位置づけ、この2点の理由によると思われます。

監修 ねふた屋 山内 和人 氏

1. 骨組みの材料(写真参照)



- (1) 竹ひご(90cm) 3本
- (2) 竹ひご中(45cm) 2本
- (3) 竹ひご小(22.5cm) 4本
- (4) 左右を斜めにカットした1センチ角の角材(11cm) 2本
- (5) 1センチ角の角材(5cm) 2本
- (6) ミニビス(20~25cm) 4本
- (7) その他 竹ひごを縛る糸と木工ボンド(写真参照)



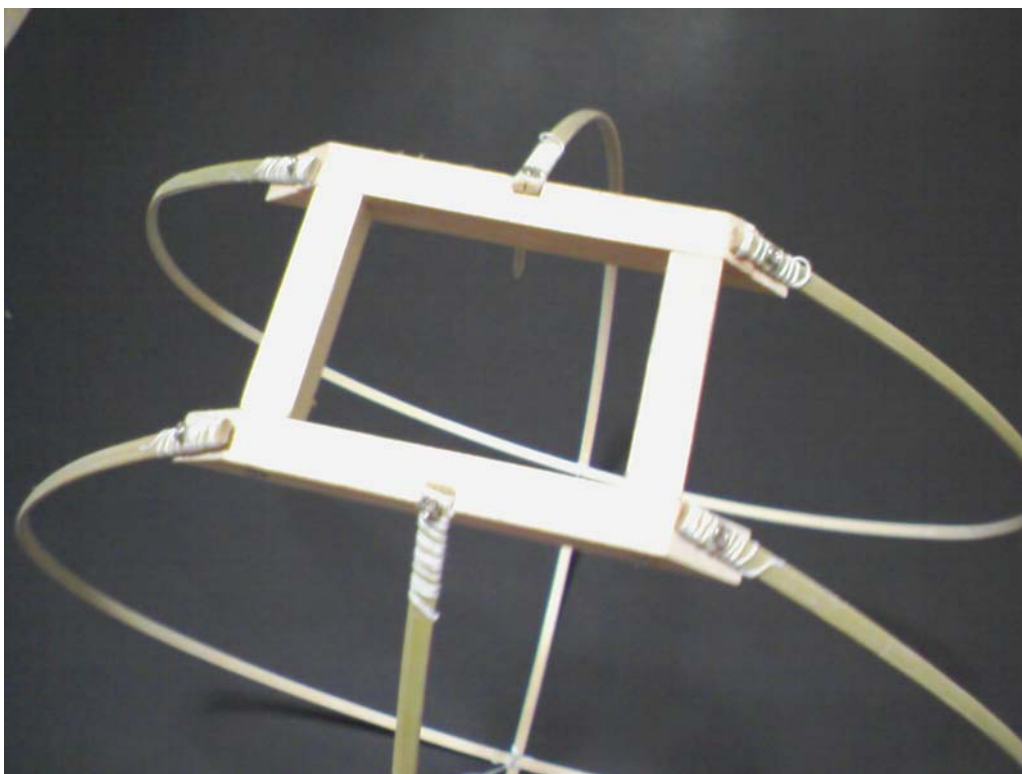
※穴あけの際に割れ予防の為、予め両端2cm くらいまで糸を巻き木工ボンドを塗り補強しておくが良い。(写真参照)

2. 骨の組み方

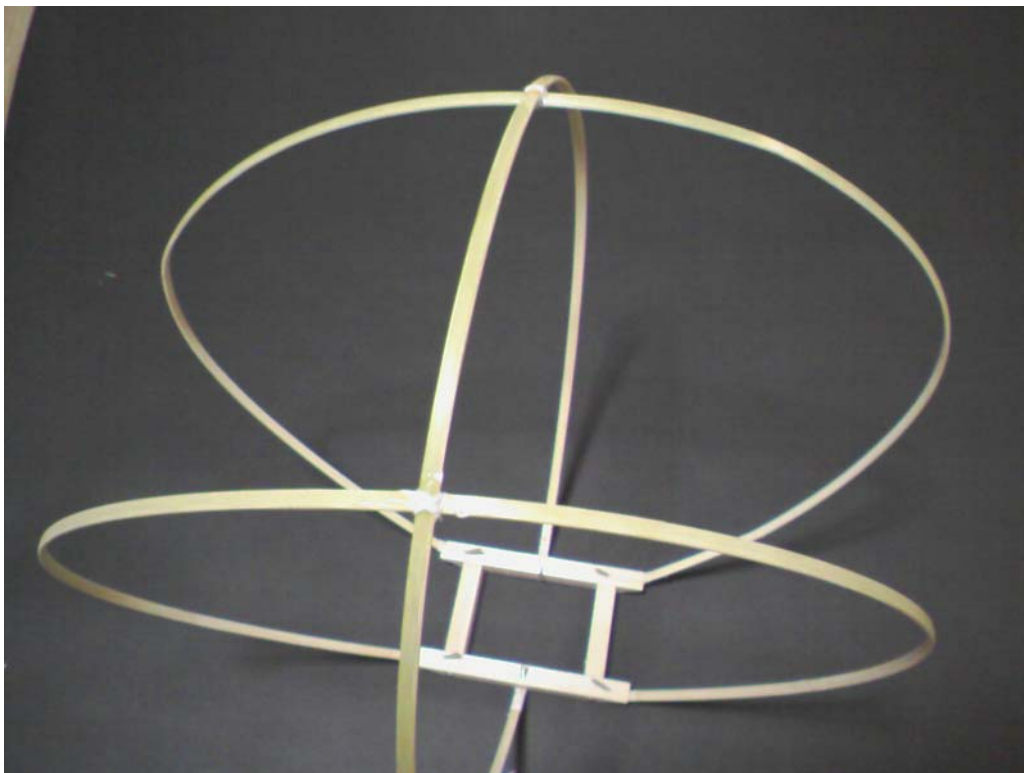
【手順1】写真のように角材を組む。



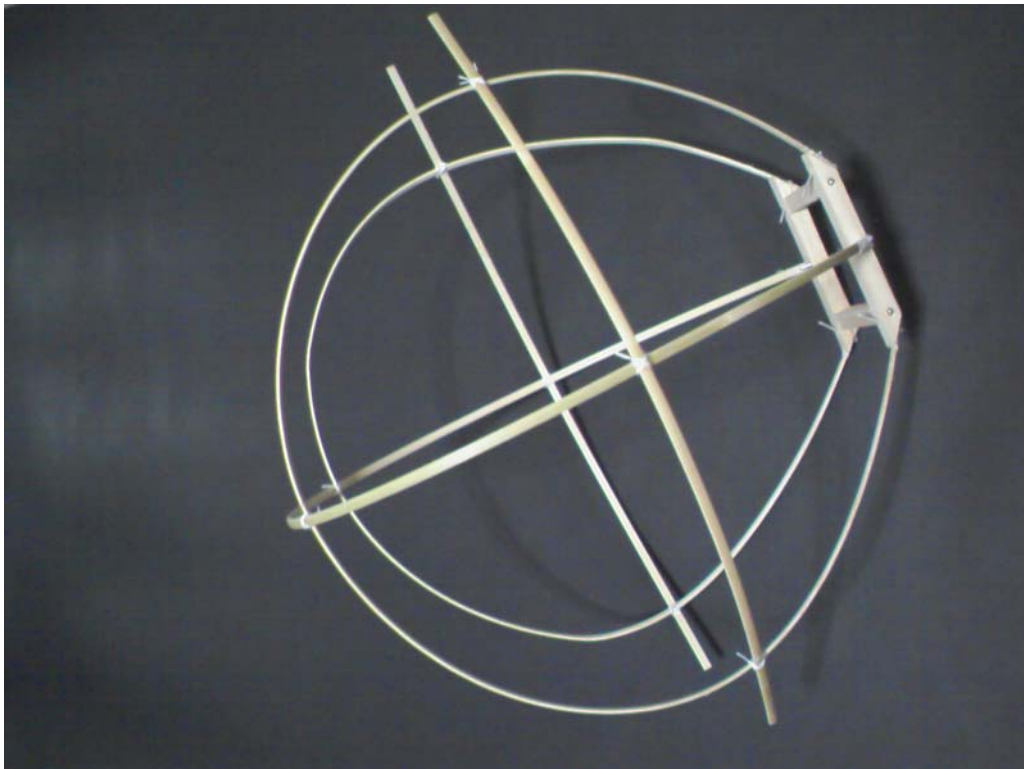
【手順2】手順1で組んだ角材に竹ひご3本両端6箇所をビス(釘)でとめる。



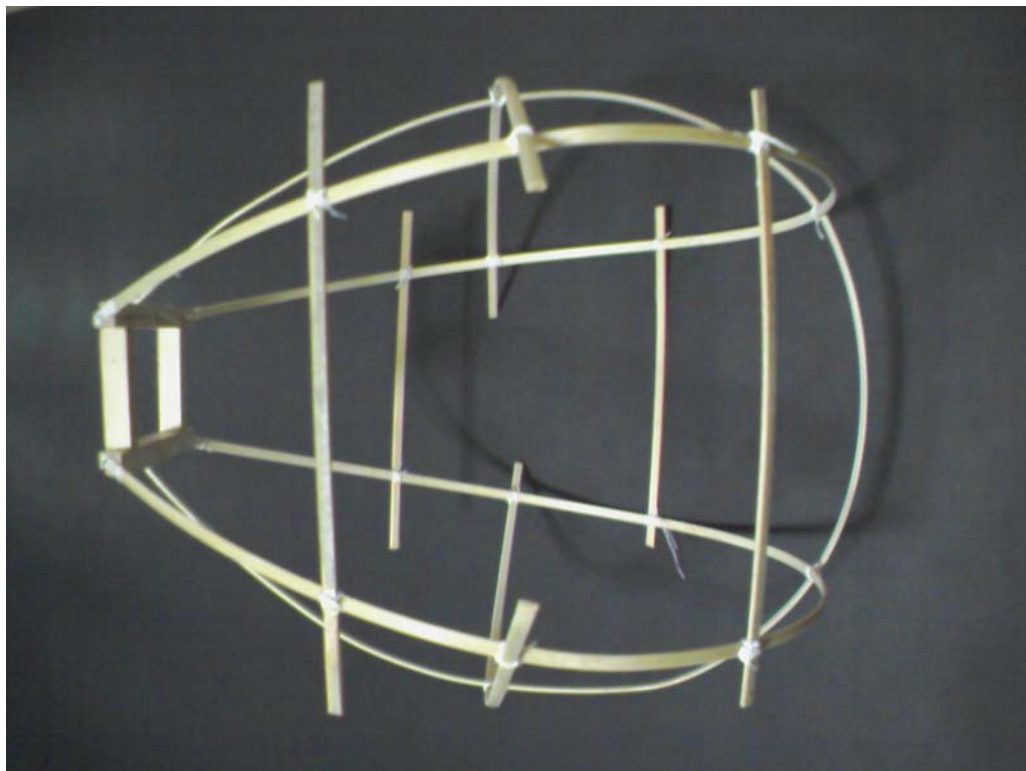
【手順3】 手順2で組んだ角材と竹ひごの交差部分2箇所(底部分)を糸で十字に縛る。



【手順4】 前後の縦の竹ひごに竹ひご(中)を交差させて糸で十字に縛る。その後、両側も糸で縛る。



【手順5】左右側面2箇所ずつ計4本の竹ひご(小)をハシゴのように渡して縛る。

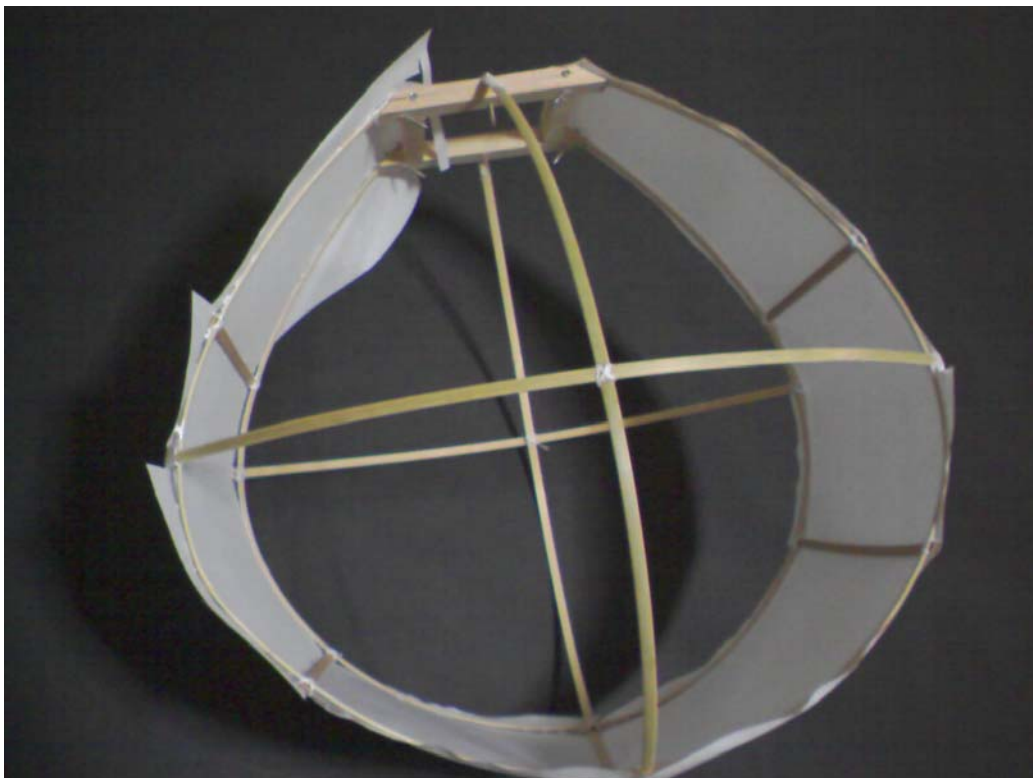


【手順6】仕上げは余分にはみ出した竹ひご(中)(小)をカット。縛った糸の余分もカット。で骨組みは完成。

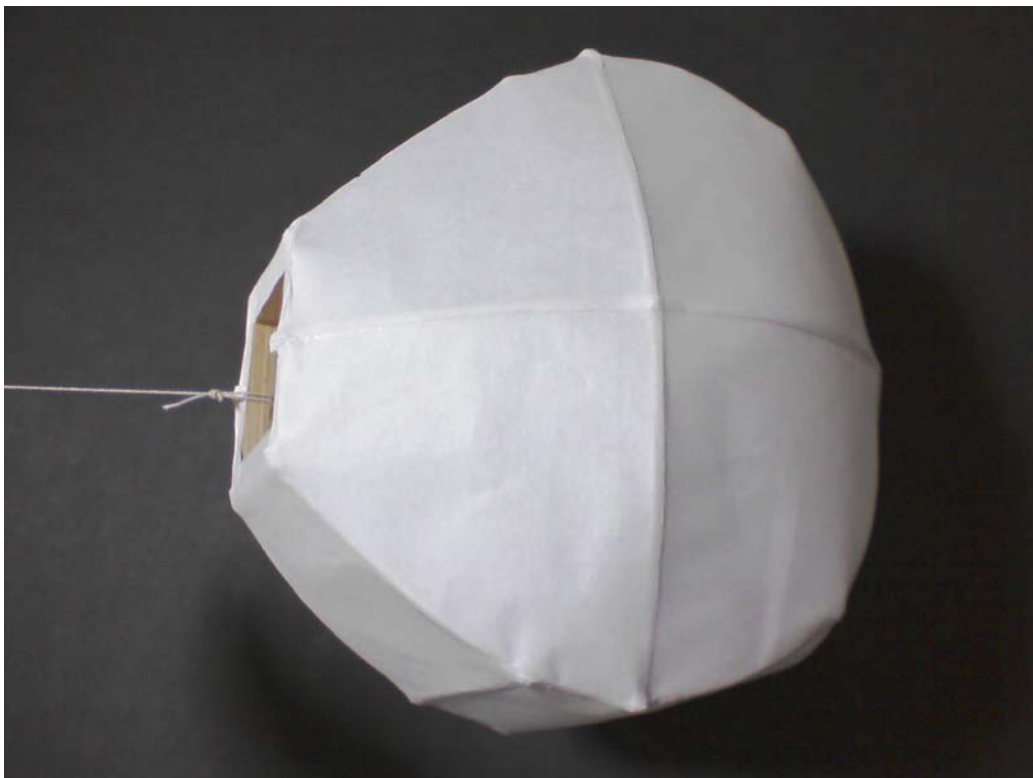


3. 紙の貼り方

【手順7】紙を側面から順に1コマずつ貼っていく。



【手順8】前後面を貼り、紙貼り完成。



4. 墨書き、ロウ描き、彩色
【手順9】墨描きをする。



【手順10】ロウ描きをする。



【手順 11】 彩色をする。



5. 装飾する

【手順 12】 前後面共に柔らかい紙でリボンとフリルを着けて完成。





【最後に…】

たくさんの方々が巾着ねぶたを作って、弘前ねぶたまつりを盛り上げて頂きたいと思います。
細かい部分のご不明な点等のご質問は、電話またはEメールを頂ければ喜んでお答えいたします。

ねぶた屋 山内 和人
電話 0172-32-2994 Eメール mail@neputaya.com
ねぶた屋 HP <http://www.neputaya.com/>

巾着ねぶたの作り方
2009年7月
監修 ねぶた屋 山内 和人氏
発行 弘前ねぶた参加団体協議会
<http://neputa.jp/>